

# 佐久市新品目導入試験事業

## 平成30年度事業報告書



佐久市営農支援センター

# 1 新品目導入試験事業の目的と

## 平成30年度の事業の経過について

当事業は、新品目の農作物や新技術について、佐久市の気候や風土に合い、かつ経済性を発揮できるかの試験をし、適合する品目等において農業者へ普及を図るために、当佐久市営農支援センターが試験業務を受託し、佐久市跡部において事業を進めています。

本年度は本事業の受託8年目となり、引き続き「収益性の高い転作作物の推進と新技術の導入・実証」「新たな佐久市ブランド製品の育成」について、より普及拡大を目的として取り組みました。

目標の1つ目である「収益性の高い転作作物の推進と新技術の導入・実証」については、米の消費低下や米価の下落が米生産中心の農業経営を直撃し、収益性の高い転作作物の導入はさらに重要度を増すなかで、カモミールや春植エタマネギなどの作物を実証することで、付加価値が高く 比較的取り組みやすい作物などについて検討を重ねてまいりました。

2つ目の目標としての「新たな佐久市ブランド品の育成」では、地域の特性に合いつつ、「佐久市らしい」農産物の実証栽培試験を行ってまいりました。

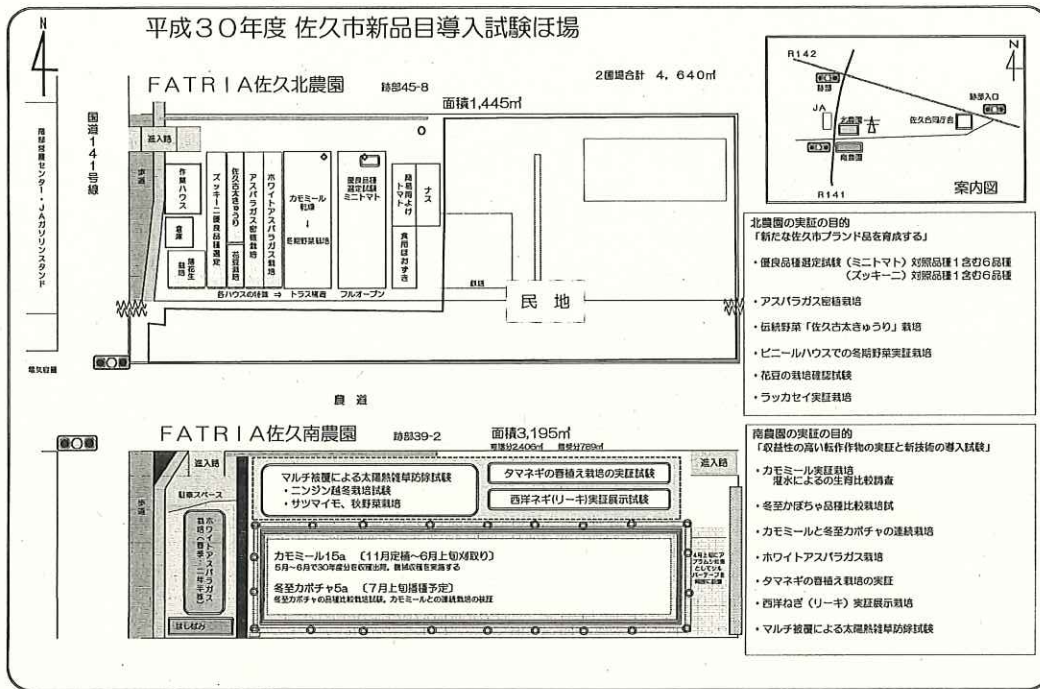
地域の主力農産物であるミニトマトとズッキーニの優良品種の選定試験の実施、保存会が立ち上がった佐久古太きゅうりの実証栽培、新たな産地の育成に向けた花豆の実証栽培、冬期のビニールハウスを活用した葉物野菜の実証栽培を実施しました。

栽培技術の提案として、マルチ被覆による太陽熱雑草防除試験を実施しました。

また、実証展示栽培で終わりとならぬよう、消費者の嗜好に合う加工や販売を見据えた6次産業化への取組の一環として、観光イベント等に合わせ、試験ほ場で生産された農産物や、普及推進を図ってきた農産物を組み合わせる試食イベントを行いました。



## 2 平成30年度新品目導入試験事業の概要



## 3 平成30年度に取り組んだ試験の内容について

### I. 「収益性の高い転作作物の実証と新技術の導入試験」

- ① 「カモミール」の栽培 15a  
29年10月上旬～30年7月上旬
- ② 「冬至かぼちゃ」栽培 5a  
7月上旬～10月下旬

### II. 「新たな佐久市ブランド品の育成」

- ③ 伝統野菜「佐久古太きゅうり」の栽培展示と栽培講習会  
5月上旬～10月上旬 0.1a
- ④ 優良品種選定試験 「ミニトマト」  
3月下旬～11月上旬 0.9a
- ⑤ 優良品種選定試験「ズッキーニ」  
7月中旬～10月下旬 0.3a
- ⑥ ベニバナインゲン(花豆)の実証試験  
5月下旬～10月下旬 標高650m地帯での花豆の実証試験 0.1a
- ⑦ 春植エタマネギ栽培試験  
2月中旬～7月下旬
- ⑧ マルチ被覆による太陽熱雑草防除試験(ニンジン、サツマイモ)  
5月中旬～10月下旬
- ⑨ アスパラガスの密植栽培  
4月下旬～ 0.4a

- ⑩ ホワイトアスパラガスの実証試験  
4月下旬～ 0.2a
- ⑪ ミニトマトの簡易雨よけを利用した栽培  
3月下旬～10月下旬 簡易雨よけを利用した栽培試験 0.2a
- ⑫ 冬期のハウス栽培実証試験（コマツナ、ホウレンソウ、かき菜、葉大根、葉レタス、カブ）  
12月上旬～3月中旬

### Ⅲ. 「試験品目及び推奨品目の普及活動」

各イベントに合わせた、栽培品目や市内産農産物のPR活動について

- ・イベント名： バルーン係留搭乗体験  
場 所： 市民交流広場  
実施日、PR 野菜、PR 人数  
： 7月22日 佐久古太きゅうりと夏野菜の冷製スープ → 100名  
： 8月11日 佐久古太きゅうりとパプリカとミニトマト → 150名  
夏野菜の冷製スープ
- ・イベント名： 佐久市農業祭  
実 施 日： 11月10日  
PR 野 菜： 跡部産リーキ・望月産ニンジン・御牧原産白土馬鈴薯  
・長者原産キャベツ・跡部産ミニトマトのスープ  
(市内産農産物のPR)  
PR 人 数： 200名

### 「佐久市新品目導入試験事業講演会」の開催

開 催 日： 平成31年2月14日

内 容：

- ・新品目導入試験事業の試験概要について (佐久市農政課)
- ・新品目野菜等の栽培技術試験について (佐久農業改良普及センター)
- ・講演会

演 題 「稼ぎとゆとりから逆算する品目選択の手法」

講 師 (株)百一姓 代表取締役 上級農業アドバイザー 城口権二 様

参加者数： 47名

## カモミール（実証展示販売）

栽培期間 平成29年10月～平成30年7月

品 種 シャーマンカモミール（出荷先指定）

### 施肥・栽培管理

株間 30 cm 畝間 45 cm

黒マルチ

元肥 発酵鶏糞 225 kg/15a

### 栽培経過

平成29年10月 播種（JA育苗センター）

11月28日 定植 6,500株

平成30年 4月16日 シルバーテープ張り

6月1日、5日刈取り（バインダー収穫）

～7月27日 乾燥・細断

7月27日 出荷

### 試験結果

収穫量（乾燥重） 551 kg 前年比 157%

作業時間 定植 3時間、作業人数8人

刈取り 16時間 作業人数8人

乾燥 約7週間

細断、出荷 6時間、作業人数12人

### 刈取体験

平成30年5月19日 19人



## 考 察

播種から育苗に関してはJA育苗センターへ委託して、播種機によるセルトレイ播種をした。発芽後に、間引き作業を行い調整した。

平うねマルチによる雑草対策を行い、手植えで定植をした。

定植の株数は、前年度と同量。平うねマルチは、通路部分ができるため、栽培面積は、1.5倍の15aとなった。

今年は、4月から定期的に降雨があったため灌水などは行わず、収穫時の草丈は、大部分が60cm程度、大きいものは80cmまで生長した。

稲刈りバインダーによる「刈取り・結束」を試みたが、花側が大きく膨らんでいるため、目詰まりして、スムーズに「刈取り、結束」とはいかなかった。ただし、小さめの株のところは、「刈取り・結束」ができたので、育て方によっては、機械での「刈取り・結束」できると考えられる。

乾燥から細断については、ハウス内での吊るし乾燥し、送風機によりハウス内の空気を攪拌して乾燥を実施した。乾燥期間中に梅雨になることから細断実施日の選定が難しかった。

細断は剪定枝用のチップパーにより、良好な結果であった。

昨年度と比較して、定植株数は前年同数であるが、栽培面積は1.5倍、収穫量も1.5倍となった。平うねマルチにより株間が広がったことから、一株が大きく成長したと考えられる。



↑ 4/20 生育



↑ 5/23 開花



↑ 6/5 バインダー刈取り

## 次年度における試験項目

雑草対策のためマルチングをしているが、異物混入防止と作業軽減のためマルチありとなしで生育の比較栽培を行う。

## 冬至かぼちゃ（実証展示栽培）

栽培期間 平成30年 7月～10月

品 種	栗五郎（カネコ種苗）	42粒
	KAQ-018	35粒
	プリメラクイーン	35粒
	プリメラ115	35粒

### 施肥・栽培管理

株間 40 cm 畝間 90 cm

白マルチ

元肥 BB-042 13.1 kg 炭苦土 10 kg

### 栽培経過

7月 3日 施肥・うね立て

4日 播種 147粒

8月24日 マット敷き

10月11日 収穫

キュアリング

12月13日 出荷

### 試験結果

1果どり（12節～14節の果実）

収穫量 32個 （サイズは、S及びM）

栗五郎 19個

KAQ-018 2個

プリメラクイーン 4個

プリメラ115 7個

## 考 察

水田転作の有力品種として「冬至かぼちゃ」の栽培を実施。昨年度、出荷後にクサレが出たものがあつたとのことから、4品種を栽培し、比較をすることとした。

カモミール収穫後のほ場を耕起、施肥し、種を直播し、栽培をした。

播種後、降水量が少ない影響からか、発芽状況が著しく悪かつた。(発芽率約30%)

さらに、9月まで、晴れと高温の日が続いたことから枯れてしまうものもあつた。

よつて、収穫量は極端に少なく、品種間の差を比較することもできなかつた。



↑ 9/9



↑ 播種後 60日

## 次年度における試験項目

カモミールとの輪作体系化を図るとともに、佐久地域での冬至用力ボチャの品種を比較する試験栽培を行い、佐久地域の気候風土に適した品種の検討を行う。



## 佐久古太きゅうり（実証展示栽培）

栽培期間 平成29年5月～10月

品 種 佐久古太きゅうり（信州の伝統野菜）

### 施肥・栽培管理

株間 100 cm 畝間 90 cm×10m

白マルチ

元肥 堆肥

浅間野菜化成 2.0 kg

サンライム 2.0 kg

ようりん 1.2 kg

追肥 化成肥料（8-8-5）

害虫防除については、慣行のきゅうり栽培どおり

### 栽培経過

5月 1日 播種

5月17日 元肥

5月28日 定植（8本）

6月12日 殺菌、殺虫、展着

7月 1日 収穫開始

10月12日 収穫終了

### その他

佐久古太きゅうり保存会会員への苗の配布と栽培講習会の実施

（5/25、26名、約400本配布）

## 考 察

試験ほ場の平成 23 年度から継続して実証展示栽培と、栽培者を増加させるための取り組みを実施している。栽培希望者や野菜栽培講習会の参加者へ講義を行うための栽培としている。

うどん粉病、べと病、つる割れ病等が発生したため、週 1 回定期的に防除を行った。

樹勢が旺盛で、果実が小型であるため、葉の整理を怠ると取り忘れの果実が肥大化しやすい。

また、収穫の後半（9 月中旬以降）になると、不受精の変型果や空洞果の発生が多くなるため、断面の形状が丸みを持った四角形から三角形に変わり始めたら、良品は減少する。

平成 28 年度に発足した「佐久古太きゅうり保存会」により、生産者の増加、販売量の増加に努めており、佐久古太きゅうりが一般的に定着するようつなげていきたい。



↑ 6/6



↑ 7/17



↑ 佐久古太きゅうり

## 次年度における試験項目

次年度においても、本年と同様に栽培を実施する。

栽培グループが組織され、信州の伝統野菜伝承地栽培に認定されたことから、一般的に使用されるよう、展示栽培を行い栽培者の増加、生産量の増加となるよう普及に努めていく。

## ミニトマト（優良品種選定試験）

栽培期間 平成30年 3月～ 11月

品 種 サンチェリーピュア（対照品種）、TTM-117（サマー千果）、  
AMS-200（アルル）、CFプチプロ、ST-1、キャロルパッション

### 施肥・栽培管理

株間 40 cm 畝間 95 cm×18 m

白マルチ

元肥 特肥いきき混合20kg、なたね粕 10 kg、炭苦土20kg

FTE1.5 kg、ジャンプ有機 13 kg

### 栽培経過

3月19日 播種

4月12日 施肥

5月23日 定植

6月12日 殺菌、殺虫、展着

7月27日 収穫開始

8月 7日 現地研修会

8月22日 第1回優良品種調査

8月30日 検討会（全農、JA、佐久農業改良普及センター、市）

10月 3日 第2回優良品種調査

11月 9日 収穫終了



## 試験結果

別紙試験結果表のとおり（再検討品種が1品種）

その他品種については、継続および検討外

## 考 察

平成 24 年度より継続して実施している事業であり、佐久市内の有力品種であるサンチェリーピュアより、耐病性に選れ、なおかつ食味や樹勢や出荷規格などにおいて良い物を探すために対照品種のサンチェリーピュアを含む 6 種類での試験を行った。

全品種を通じて、病害虫の発生は見られず、耐病性の比較はできなかった。収量性は 3 品種が対照品種と同等で、商品性は 3 品種が対象品種と同等であった。

結果としては、別表のとおり。

1 品種は次年度再検討することになった。



↑ 6/6



↑ 8/10



↑ 8/22 品種選定試験

## 次年度における試験項目

次年度においても、本年と同様の試験を実施するが、前述のとおり今後問題となってくることが見込まれる病害や、栽培技術に関する試験も検討していく必要がある。

## ミニトマト優良品種選定試験結果表

佐久市内で多く生産されている品種のサンチェリーピュアを対象品種として、  
耐病性並びに、収量性・商品性について調査

品種名	総合評価	H31 年度再検討	H31 年度実用
(対照) サンチェリーピュア	—	—	—
TTM-117 (サマー千果)	同 等	○	
AMS-200 (アルル)	同 等		
CF ぶちプロ	同 等		
ST-1	劣 る		
キャロルパッション	同 等		

総合評価は、対照品種に対する相対評価である

各品種の特記事項

- TTM-117 果が大きく収量性は高いと思われるが、裂果はやや多い。糖度は他品種より若干低いものの、食味は良好。次年度再検討品種としたい。
- AMS-200 今回試作した品種の中で最も食味が良かった品種。糖度も安定して高く味も濃い印象を受けた。果実がやや小さく、収量性がやや低いことと、裂果が多いのが難点。
- CF ぶちぶよ 皮が薄く。多角形の形状、サクランボのような色合い、酸味のない食味。ゼリー質が少ない。共に独特であり、一般のミニトマトとしての販売は難しい。  
果に光沢があり、糖度が高く、食味も良いので、契約販売や直売所向けには適しているか。果の揃いは悪い。収穫適期の見極め難しい。
- ST-1 草勢が弱い。酸味が少なく、味が薄い印象。
- キャロル 草勢が弱い。果の揃いが悪かった。
- パッション



## ズッキーニ（優良品種選定試験）

栽培期間 平成30年 7月～ 10月

品 種 グリーンポート2号（対照品種）、KZパワー（MKS-X3）、TZ-14、  
NSZ-20、試交652、TSX-731Z 各5粒

### 施肥・栽培管理

株間 180 cm 畝幅 100 cm 2畝

白マルチ

元肥 BB042 5kg

ようりん 2kg

炭苦土 6kg

### 栽培経過

7月 4日 播種

8月 7日 収穫開始

10月 3日 優良品種調査

10月31日 収穫終了

### 試験結果

別紙試験結果表のとおり

## 考 察

平成 24 年度より継続して実施している事業であり、佐久市内の有力品目であるズッキーニの秋季収穫品種について、樹勢や出荷規格などにおいて良いものを探すために対照品種のグリーンボート 2 号を含む 6 品種での試験を行った。

作柄は、8 月中旬頃よりモザイク病が激発し、特に対照品種のグリーンボート 2 号は収穫不能となった。その他品種においても、モザイク病の影響が大きく、収穫量を大きく落とした。

一度病気にかかってしまった株の葉を整理し、支柱で立たせて、風通しを良くすることで、樹勢が復活し、出荷同等品を収穫することができた。

結果としては別表のとおりであり、次年度は 2 品種を再検討することになった。



↑ 8/10



↑ 9/9 支柱



↑ 9/12

## 次年度における試験項目

ズッキーニは市内農産物のうちでも主力品種であるため、次年度においても継続して行う。調査を実施する9月中旬が収穫の最盛期となるように、作期の調整を行う。

## ズッキーニ優良品種選定試験結果表

佐久市内で多く生産されている品種のグリーンポート2号を対照品種として、耐病性並びに収量性・商品性について調査

品種名	総合評価	H31 年度再検討	H31 年度実用
対照 グリーンポート2号	—	—	—
KZパワー (MKS-X3)	優れる		
TZ-14	同等		
NSZ-20	同等		
試交652	優れる	○	
TSX-731Z	優れる	○	

総合評価は、対照品種に対する相対評価である



各品種の特記事項

- KZパワー 草勢強く収量性も高い。昨年は果皮色がやや淡く問題となったが、今回の試験では果皮色は濃緑で対照品種とし比較しても遜色なかった。
- TZ-14 草勢・収量性共に中程度だが、果皮色がやや淡い。
- NSZ-20 草勢・収量性共に中程度だが、果皮色がやや淡い。ウィルスに弱い。
- 試交 652 草勢強く、収量性も高い。果皮色も濃緑で商品性も高い。又、今回試験した中で最も後半まで収量が落ちなかった品種。生産者からも評価が一番高かった。次年度再検討品種とする。
- TSX-731Z 草勢強く、収量性も高い。果皮色も濃緑で商品性も高い。次年度再検討品種とする。

# ベニバナインゲンの栽培適性試験

栽培期間 平成 30 年 5 月～10 月

品 種 ベニバナインゲン

## 施肥・栽培管理

株間 1.5m 畝間 90 cm×9m

元肥 浅間野菜 1 号 486 g、炭苦土 1.6 kg

## 栽培経過

5 月 23 日 播種

10 月 19 日 初収穫

## 結 果

規格	収穫数 (個)	収穫量 (g)	1 個平均重 (g)	規格別 (g)
大 A	135	420	3.1	1,820
中 A	393	1,000	2.5	
小 A	235	400	1.7	
大 B	48	120	2.5	1,340
中 B	315	720	2.3	
小 B	298	500	1.7	
規格外	239	330		
計	1,663	3,490		

A 級品が 52%、B 級品は 38%、規格外 9%であった。

## 考 察

ベニバナインゲンは、需要が比較的高い傾向にあり、栽培適地は標高 800m 以上といわれている。

佐久市内の標高 670m の試験圃場で（佐久市の平地部の標高は、概ね 600m～700m）、どの程度のベニバナインゲンを収穫することができるか試験を行い、収穫量・品質を検討した。

左表のとおり、

1 株当たり A 級品収穫量は高冷地の適地では 500g 程であり、当試験圃場では 260g と約 1/2 であった。

今夏は、例年より気温が高い状態が続き、ベニバナインゲンを栽培の条件としては、厳しい気候であった。



↑ 7/17



↑ 8/22



↑ 1/21 選別検査

## 次年度における試験項目

播種時期を、開花時期に適温の時期になるよう調整し、継続して、実証展示栽培をしていきたい。

樹勢が強く、繁茂することから、株間を広くし、風が多く通るようにした栽培を行う。



## 春播きタマネギ栽培試験

栽培期間 平成30年2月～7月

品 種 マルソー600粒 (春まき用品種)  
ケルタマ600粒 (晩成品種)

### 施肥・栽培管理

畝間 90 cm×50m

元肥 炭苦土 10 kg 化成肥料 10 kg ケイフン 30 kg

追肥 化成肥料 8-8-5 700g (1 m<sup>2</sup> 160g 程度)

### 栽培経過

2月13日 播種

4月10日 定植

7月18日 初収穫

### 結 果

#### 収量比較表

品種	総重量 (kg)	収穫 球数	平均球重 (g)	分球数
マルソー	83.6	548	152	44
ケルタマ	109.1	640	170	19

玉の大きさはMサイズ主体であり、家庭で使うのに手頃な大きさであった。

## 考 察

秋播きタマネギは、冬期の凍み抜けや春の抽苔・分球で収穫量が減少するリスクがある。

2月中旬播種、4月中旬定植（黒マルチ）、7月中旬収穫という作型で品質収量を検討した。

5～6月の適度な降雨で順調に生育した。少雨の場合は、灌水が必要。

無防除にもかかわらず、収穫時の7月中旬まで病害虫の大きな被害はなかった。

苗づくりにはビニールハウスなどの施設を必要とするが、欠株や抽苔、分球するものは少なく、良質なものを収穫することができた。

慣行的な栽培方法と、時期をずらして販売することができる。

乾燥後、貯蔵したが、貯蔵中の腐敗・発芽も少なかった。

栽培期間を必要とする晩成品種の方が、1玉当たり大きいものを収穫できた。



↑ 5/11



↑ 6/27



↑ 7/17

## 次年度における試験項目

新品目導入試験事業講演会で紹介したところ、春巻き栽培に興味を持つ農業者も見られたことから、継続して、実証展示栽培を行っていきたい。

## リーキ【ポロネギ・西洋ねぎ】(実証展示栽培)

栽培期間 平成30年 6月～

品 種 メガトン

### 施肥・栽培管理

株間 15 cm 畝間 110 cm×10m 2本

元肥 炭苦土 5 kg 化成肥料 (8-8-5) 5 kg 堆肥 100 kg

### 栽培経過

6月19日 定植 170本

7月24日 追肥、化成

8月17日 化成

土寄せ (3回)

11月 8日 収穫

### 結 果

定植後、約4か月で収穫ができた。

樹勢が強くなるため、追肥が必要。

転作水田でも栽培は可能であるが、土寄せ作業に苦慮する。



## 考 察

平成 23～24 年度に試験栽培を実施して、JA 佐久浅間にリーキ部会が発足している。

近年は、生産量が減少傾向しているとのこと。国産リーキの需要は、高い傾向にある。

29年度は、土寄せにより軟白部分を伸ばしたが、土寄せの際に葉しょう部に土が入り、土が残ってしまったため、30年度は刈り草を土寄せの代用として使用した。

軟白部分への土の混入は防げたが、軟白部分を長くは伸ばせなかった。

一般消費者にも、徐々に認知されてきており、直売所等でも見かけるようになってきている。

日本のネギと違い、加熱調理により食すネギであり、加熱により甘みと風味が出る。

もっと、広く周知を図るため、食べ方提案とともにした販売が必要である。



↑ 9/9



↑ 10/3



↑ リーキ

## 次年度における試験項目

継続して、実証展示栽培をしていきたい。

## 太陽熱マルチ雑草防除試験

栽培期間 平成30年6月～10月

作付品目 ニンジン  
サツマイモ

定植方法 スジ蒔き（ニンジン）  
水平植え（サツマイモ）

### 結 果

4月から8月被覆の透明マルチでの雑草抑制効果は確認できた。

畝肩部は、十分な温度の向上にならず、イネ科の雑草が生育した。

通路部の雑草対策に堆肥及び廃オガの敷設により、雑草の発生を抑制できた。

播種時に、表土を動かさないようにすることの注意が必要である。

3月被覆の透明マルチは地温が上がらずにマルチ内に雑草が繁茂した。そこでそのマルチをそのまま利用しサツマイモを植付け、コガネムシ被害の回避を検討した。部分的にコガネムシ幼虫被害の多い株があったが程度は軽微なものであり、ほとんどの芋は被害がなかった。



↑ 5/11



↑ 9/9

1株当 収穫本数	1株当 重量 (kg)	1本当 重量 (g)	株当 虫害 (本)
6.5	4.2	646.2	0.8



## ハウス抑制作型試験

栽培期間 平成30年8月～11月

作付品目 サツマイモ (21株)

定植方法 垂直植え

定植日 8月1日

初収穫日 11月29日

収穫量 17kg



↑ 9/24

### 結果

夏季の空きハウス有効利用として、サツマイモの抑制作型を検討した。8月1日植付けで、活着まで寒冷紗による遮光と定期的な灌水を行った。

農薬は不使用、収穫は11月29日。

1株当 収穫本数	1株当 重量 (g)	1本当 重量 (g)	最大長 平均 (cm)	最大重 平均 (g)
9.5	841.4	88.6	20.3	234.3

11月中旬の強い霜でほとんどの葉が枯れ、生育期間が活着後約90日と短くなってしまった。

そのため小さいイモが多い結果であった。植え付け時の莖が長く、土中深く埋めたため根数が多いのも影響したと考えられる。挿し苗の莖の長さを短くし7月中旬までに植付けできれば、適度な大きさに収穫できると考えられる。



## アスパラガス密植栽培（実証展示栽培）

栽培期間 平成30年 4月～

品 種 ウェルカム

### 施肥・栽培管理

株間 30 cm 畝幅 90 cm×23m 2畝

マルチ 黒マルチを両サイドに設置

元肥 さく浅間 1号、炭苦土 2 kg、ケイフン 15 kg、もちづき有機約 800 kg

### 栽培経過

4月27日 定植（153本）

7月 中旬 誘引

11月13日 茎の刈り取り

### 結 果

ウェルカムの1年株を密植栽培するように定植した。

31年春の収穫のための株養成を行った。

2週間おきに防除を行い、病気の発生は見られなかった。



↑ 6/6



↑ 8/30 株養成



↑ 1月の様子

### 次年度における試験項目

収量調査を行い、慣行的な栽培との、費用対効果を考察する。

新たな栽培方法として、展示栽培を行う。

## ホワイトアスパラガス（実証展示栽培）

栽培期間 平成30年 4月～

品 種 ウェルカム

施肥・栽培管理

株間 40 cm 畝幅 90 cm×23m 1 畝

元肥 さく浅間1号2kg、炭苦土2kg、ケイフン15kg、もちづき有機約800kg

被覆材 遮光シート

追肥 さく浅間野菜1号

栽培経過

4月27日 定植（57本）

7月 中旬 誘引

11月13日 茎の刈り取り

結 果

ウェルカムの1年株を密植栽培するように定植した。

31年春の収穫のための株養成を行った。

2週間おきに防除を行い、病気の発生は見られなかった。



↑ 6/6



↑ 7/26



↑ H31 で遮光予定

次年度における試験項目

新たな栽培方法、特産品となるよう、展示栽培を行う。 収量調査を行う。

## 雨よけミニトマト（実証展示栽培）

栽培期間 平成30年5月～9月

品 目 サンチュリーピュア24本、AMS-200 24本、CFプチプロヨ24本

### 施肥・栽培管理

株間 40 cm 畝幅 0.9m×10m

マルチ 白マルチ

元肥 炭苦土 2.5 kg 特肥いきいき 5.0 kg ダブリン 1.3 kg

### 栽培経過

5月28日 元肥

5月30日 定植

6月12日 殺菌、殺虫、展着

7月30日 初収穫日

9月30日 収穫終了



↑ 7/17



↑ 8/10



↑ 9/9

### 結 果

今年は、夏季期間が少雨傾向であったため、食味の良いものが収穫できた。

大型施設のいない栽培方法を展示した。



## パプリカ（実証展示栽培）

栽培期間 平成30年5月～10月

品 種 赤系（スペシャル）黄系（フェアウェイ）どちらも苗からの栽培

### 施肥・栽培管理

株間 40 cm 畝幅 90 cm×17.5m

マルチ 白マルチ

元肥 特肥いきいき 20 kg シャンプ有機 13 kg なたね粕 10 kg

炭苦土 20 kg 微量要素複合肥料（FTE） 1.5 kg

### 栽培経過

4月12日 施肥

5月10日 定植（赤系 10本、黄系 10本）

7月31日 初収穫

10月30日 収穫終了



↑ 6/6



↑ 7/26



↑ 9/9

### 結 果

実証展示及び野菜栽培講習会用の展示講習用として、栽培している。

長野県農業試験場からの技術情報にある「2本仕立て」による栽培を実施する。4本仕立てと比較し、管理が容易である。また、4本仕立ては、根の負担が多く、花とびや落花が見られるが、2本仕立ては安定して着花する。

チップバーンが発生したため、定期的にカルシウムを散布する。

10月に低温の日が続いたため、寒さ対策で栽培棚をビニールで覆い、対策した。

## 冬期間ビニールハウスでの葉物野菜栽培（実証展示栽培）

栽培期間 平成30年11月～31年4月

品 目 葉大根、かぶ、かき菜、小松菜、ほうれん草、リーフレタス

### 施肥・栽培管理

畝幅 80 cm×9m ①11/26 播種 透明の有効マルチによる防寒対策

80 cm×9m ②12/1 播種 ミラクロスによる防寒対策

元肥 堆肥 4.0 kg 炭苦土 4.0 kg 化成肥料（あさま1号） 4.0 kg

### 収穫適期

平成30年11月26日 播種 平成30年12月15日 播種

	収穫適期	① 11/26 播種	② 12/17 播種
葉大根	草丈 15 cm～	1/15 50日目	2/13 60日目
かぶ		-	-
かき菜	草丈 20 cm～	2/4 70日目	2/23 70日目
小松菜	草丈 20 cm～	1/25 60日目	2/23 70日目
ほうれん草	草丈 20 cm～	2/4 70日目	2/23 70日目
リーフレタス		1/15 50日目	-



↑ 保温対策



↑ 1/24 葉大根



↑ 2/19

### 結 果

播種時期を2回に分けて栽培した。栽培期間中のトンネル内の最低気温-5℃。最高気温 35℃

日中は、ハウス内が30℃以上になるため、日々換気を実施。

冬期間ビニールハウス内で、たいていの葉菜類は栽培が可能である。

2月に高温時が続いたため、生育に差が出なかった。



## 普及推進作物PR活動について

栽培品目、推奨品目を使用した試食の提供やレシピの配布を実施した。

7月22日、8月11日 熱気球体験搭乗イベントに合わせた、農産物PRとスープの提供



↑熱気球体験搭乗会場



↑佐久古太きゅうりの試食提供



↑佐久市産農産物PR

11月10日 佐久市農業祭で「佐久市産農産物スープ」の提供



↑農業祭のスープ提供

### 原材料

跡部産リーキ、御牧原産白土馬鈴薯、  
長者原キャベツ、望月産にんじん  
跡部産ミニトマトのスープ

観光イベントに合わせて市産農産物を使った料理の提供により、親子や多くの方に味わっていただき、PRを行うことができた。佐久市の特産農産物や佐久古太きゅうり、リーキなどの新品目野菜の利用や美味しさ、高機能性を紹介することができた。

今後これらのPR活動を継続することにより、より多くの市内外の購買者を増やせるものとする。



## 「佐久市新品目導入試験事業講演会」

株式会社百一姓（塩尻市）の代表取締役社長城口権二氏による講演会と試験ほ場の試験の概要及びマルチ被覆による太陽熱除草方法の試験結果、春タマネギ等の栽培試験結果についてを佐久市役所南棟 3 階会議室において実施した。

実施日 平成 31 年 2 月 14 日（木） 佐久市役所南棟会議室 参加者 47 名



「稼ぎとゆとりから逆算する品目選択の手法」と題した講演会には農業関係団体関係者や一般の方を含め 47 名の方が参加し、農業専門の財務戦略の支援会社として財務の視点から品目の選択を行うことについて講演が行われた。

（アンケート結果は別紙）

# 新品目導入事業講演会 アンケート集計表

(回答数 25)

## I 今回の講演会は皆様の参考になりましたか？

1	大変参考になった	2
2	参考になった	22
3	あまり参考にならなかった	1
4	まったく参考にならなかった	0
5	その他	0
	無回答	1

## II 開催時期についてはいかがでしょうか

1	ちょうど良い	19
2	もっと早いほうが良い(12月中旬～1月中旬)	2
3	早いほうが良い(1月下旬～2月中旬)	4
4	もう少しだけ早いほうが良い(2月下旬～3月上旬)	0
5	もう少し遅いほうが良い(3月下旬)	0
	無回答	1

## III 新品目導入試験ほ場事業で取り組んだ方が良いと思うものはありますか？

1	イタリア野菜などの新しい品目(新品目の栽培特性試験)	8
2	伝統野菜や地域独自の品目の試験(地域色豊かな作物の栽培)	11
3	ミニトマトやスッキーニなどの一般栽培野菜についての新しい技術(新技術の普及)	9
4	水田転作が可能な作物の探索(水田転作の推進)	12
5	定期的な栽培講習会や、機械・技術などの実演会(その他)	10
6	生産者への販路のあっせんや商談会などの実施(販路拡大活動)	5
7	佐久市産農産物の販売促進(PR活動)	6
8	その他	1
	無回答	1

## IV 今回の講演会についてはいかがでしたか？

1	満足	7
2	やや満足	10
3	ふつう	6
4	やや不満	1
5	不満	0
	無回答	2

### 1の理由

普及センターのマルチ利用雑草対策、目からうろこでした。タマネギ(春まき)挑戦してみます。考え方が整理できました

### 2の理由

普段聞くことができないMQ会計について知ることができ、とても有意義でした。  
むずかしい  
米農家なので、単価は決められないが、その他の諸経費を抑えて利益を出す方法を考える  
雑草退治について参考になった  
春まきタマネギ参考になりました  
参考にしたい品目がありました。

### 3の理由

理解がちょっと難しかった  
品種間の差など、もう少し詳しく出してほしい

### 4の理由

雑草対策実証済みです

## VI その他、ご意見

- もう少し佐久市として産地化を検討されている品目や栽培方法や販売戦略について具体的なお話を期待していたので、少し残念でありました。ただ、導入試験において取り組まれている様子を知ることができ経営的な講演についても参考になることがあり、参加してよかったと思っています。
- 佐久古太きゅうりの優良化改良(品種として)と利益品目化を進めてほしい。
- 今後、このような講演会があれば出席したい
- ハウス栽培で土を使わない方法はどうか
- シルクスweetの生育ですが、写真を見た中、売り物にならない。見た目が良くなければ消費者は買わないです。
- 5年作付けの経験からシルクスweetは、砂地でワラ、米ぬかの肥料が一番良いと思われる。肥料が多いと大きくなってしまい見た目が悪い。
- 農業労災。お手伝いさんの期間が短いため、数人いるので労災年間一人17,000円は何とかならないか。



## 「野菜栽培講習会」

直売所等に出荷できる野菜農家を育成するため、栽培技術に関する講習会を実施した。

### 講習会日程

回数	実施日	内 容
1	4月19日(木)	・開講式 ・土づくり ・苗づくり ・ミニトマト、パプリカの生理形態
2	5月10日(木)	・パプリカの誘引 ・定植(ミニトマト、ズッキーニ、ナス等)
3	5月24日(水)	
4	6月13日(水)	・整枝剪定 (パプリカ、ミニトマト、ナス、佐久古太きゅうり等)
5	7月12日(木)	
6	7月31日(火)	・整枝剪定 (パプリカ、ミニトマト、ナス、佐久古太きゅうり等) ・冬至カボチャの播種 ・ミニトマト試食
7	8月23日(木)	
8	9月18日(火)	・収穫(ミニトマト・ナス・佐久古太きゅうり等) ・冬至カボチャ仕立て
9	10月30日(火)	・収穫、試食(かぼちゃ等) ・反省会
10	1月28日(月)	・冬期間のビニールハウスを利用した葉物野菜の栽培管理

講習会受講者数 17名



野菜栽培講習会の様子



実施主体 : 佐久市営農支援センター

住 所 : 佐久市中込3056

電 話 : 0267-62-3203

F A X : 0267-62-2269